症 例 演 習 Ⅱ

科目責任者　小　橋　　元
学年・学期　４学年・後期

Ⅰ．前　　文

今回の症例演習では，国家試験の臨床問題に取り上げられている症例について，その問題点を分析し，解決への方策を学ぶことに主眼を置き，選択肢を除いた症例部分を中心に講義・演習を行う。また講義では問題解決の基盤となる知識の再確認も行う。また，基礎医学，社会医学では，目前に迫ったCBTにも役立つ内容と演習を盛り込む。とくにシラバスはないが，学生は，講義計画表に記載されている国家試験の問題番号を中心に予習をしてくること。この演習は５年生から始まる臨床実習や６年生の学習にも極めて有用である。

Ⅱ．担当科（教授）

公衆衛生学	（小　橋　　元）
法医学	（黒　須　　明）
病理学（形態）	（矢　澤　卓　也）
病理診断学	（平　田　幸　一）
薬理学	（藤　田　朋　恵）
熱帯学寄生虫病学	（川　合　　覚）
国際環境衛生学	（大　平　修　二）
整形外科学	（種　市　　洋）
眼科学	（妹　尾　　正）
耳鼻咽喉・頭部外科学	（春　名　眞　一）
放射線医学	（楫　　靖）
リウマチ・膠原病内科	（倉　沢　和　宏）
麻酔学	（濱　口　眞　輔）

Ⅲ．一般学習目標

（１）重要な疾患を持つ患者さんの問題点を分析し，解決する能力を得る。
（２）上記の問題解決のための基盤となる知識を再確認し，CBTへの学習に生かす。
（３）臨床実習前に症例演習をする事により，臨床実習の効果を高める。
（４）思考能力を高め，６年生での国家試験を視野に入れた学習にスムースに適応する。

Ⅳ．学修の到達目標

（１）各コマで与えられた症例について，問題点，病態生理，診断，治療などを理解する。
（２）知識の獲得と同時に，臨床実習に応用出来るように理解の幅を広げる。
（３）６年生までこれらの能力を保持出来るようにする。

Ⅴ．授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者
1	8	31	月	1	111-A-37，111-D-57	矢　澤　卓　也
2		31	月	2	111-I-58，112-C-42	倉　沢　和　宏

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担当者
3	8	31	月	3	111- A -25，111-I-67，112-A-40	金子有子
4		31	月	5	110-H-27，112-C-30	濱口眞輔
5		31	月	6	109-G-42，108-A-40	川合　覚
6		31	月	7	調節性内斜視・外眼筋麻痺・視神経乳頭炎・うっ血乳頭・乾性角結膜炎・角膜ヘルペス	千葉桂三
7	9	1	火	1	111-A-32，111-A-50，111-E-60，111-E-61，111-E-62，110-F-26，110-F-27	稲見　聡
8		1	火	2	111-B-48，111-H-22，112-D-32，112-F-81，112-F-82，112-F-83	稲見　聡
9		1	火	3	ARMD・Centralis・CRAO・CRVO・未熟児網膜症	須田雄三
10		1	火	4	春季カタル・EKC・眼球突出・眼瞼下垂・Blowout fracture	永田万由美
11		1	火	5	108-C-28，108-F-20，109-E-63	池田宏明
12		2	水	1	112-D-63，112-D-3，106-E-42，112-F-66	中島逸男
13		2	水	2	原田病・サルコイドーシス・ベーチェット・Retina blastoma・DMR simple	鈴木重成
14		2	水	3	109-E-54，111-B-42，112-C-35，112-F-50	藤田朋恵
15		2	水	4	白内障術前・白内障術後・Pig dege・RD・DMR (proliferative)	松島博之
16		2	水	5	105-C-14，112-A-35，107-A-22，112-D-47	中島逸男
17		2	水	6	111-G-26，110-D-24	平林秀樹
18		2	水	7	107-E-48，107-Ⅰ-50	平林秀樹
19		28	月	1	110-E-14，110-G-49，109-I-70	小橋　元
20		28	月	2	110-B-13，110-B-22，109-G-43，101-C-30,	春山康夫
21		28	月	3	100-G-16，109-F-10，106-G-49，101-C-29，95-A-18	西連地利己
22		28	月	4	111-A-38，112-F-60，110-G-50	大平修二
23		28	月	5	111-I-70，112-C-47，110-D-33	大平修二
24		28	月	6	107-B-40，107-C-22	黒須　明
25		28	月	7	103-G-42，105-H-25	黒須　明
					症例演習Ⅱ定期試験	

Ⅵ．評価基準（成績評価の方法・基準）

講義終了後に試験を行い，評価する。

Ⅶ．教科書・参考図書・ＡＶ資料

今までに各科で指定した教科書および推薦図書。

Ⅷ. 質問への対応方法

随時受け付ける。ただし事前に担当各科の秘書を通じ，アポイントをとること。

Ⅸ．卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

Ⅹ．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートのフィードバックは課題による。

Ⅺ．求められる事前学習，事後学習（カッコ内は所要時間の目安）

事前学習としては，系統講義の復習。(30分)

事後学習としては，講義内容に沿った国家試験の臨床問題やCBT問題演習で，知識を確実なものとする。(30分)

Ⅻ．コアカリ記号・番号

D－13，E－5　他。